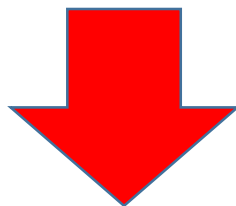


バッファーゾーンの利点

- 森林の見晴らしが良くなった
- 森林付近の樹木による民家・圃場の影が無くなった
- 出没してくる鹿が見える
- 獣避け柵の設置がしやすく、新設管理道路の使用等で管理がしやすい



獣害対策は追加対応の必要あり



地域施工でWM柵(鉄柵)を設置

W.M柵の設置

集落全体を囲うW.M柵(6.5km)を設置

■実施年:平成23年

■予算額 975万円(材料費)

(県50%、市30%、地元20%・195万円)

■設置は地権者 (労務費約300万円)

約2万円／10aの負担金

■見回りは集落、耕作者(管理費約11万円/年)

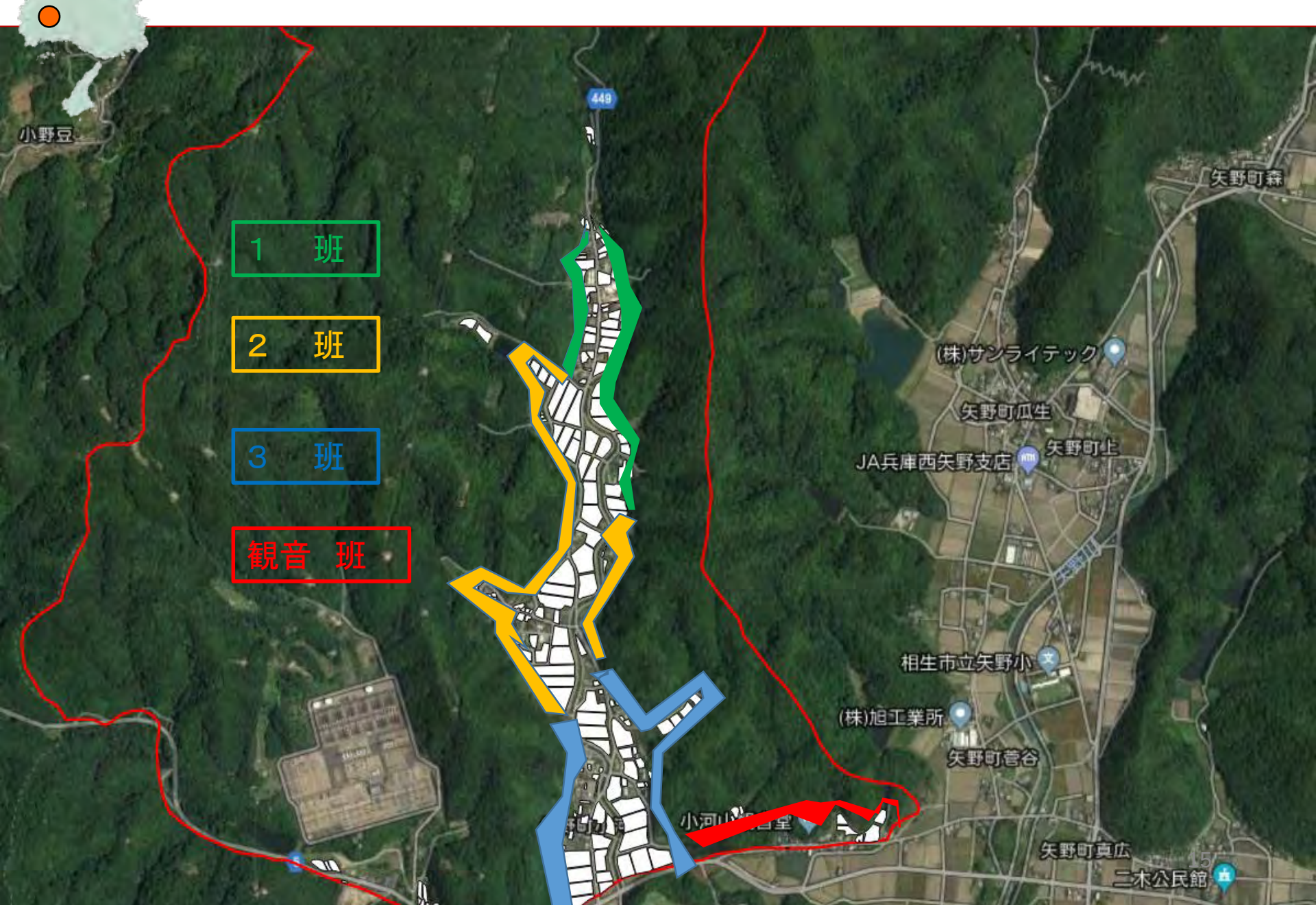
約440円／10aの負担金

W.M柵の管理

集落全体を囲うW.M柵を設置

- 集落を3班に分け、6ブロック
で点検
- 1～2回／月
- シカの被害は軽減

相生市小河





月1～2回の点検を10年近く継続している。3班体制で全戸の出役。時給630円。

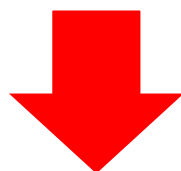


年間計画で柵の補修・補強(平成30年11月4日)

シカの被害は軽減



しかし、川・一般道路の開口部から、イノシシ、シカの侵入があり十分には被害が解消しない

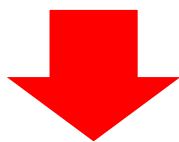


有害獣の捕獲を！

集落で捕獲を！守るのみで無く攻めよう！

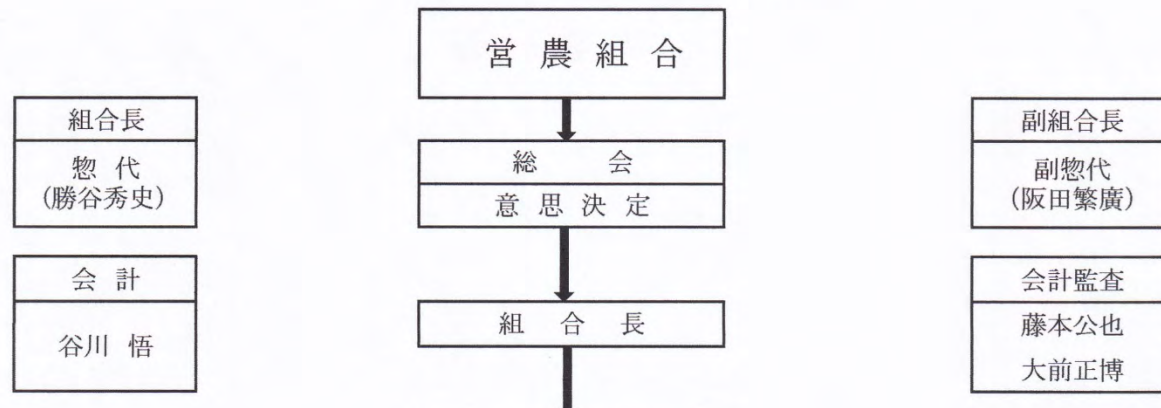


しかし、地域には捕獲者がいない

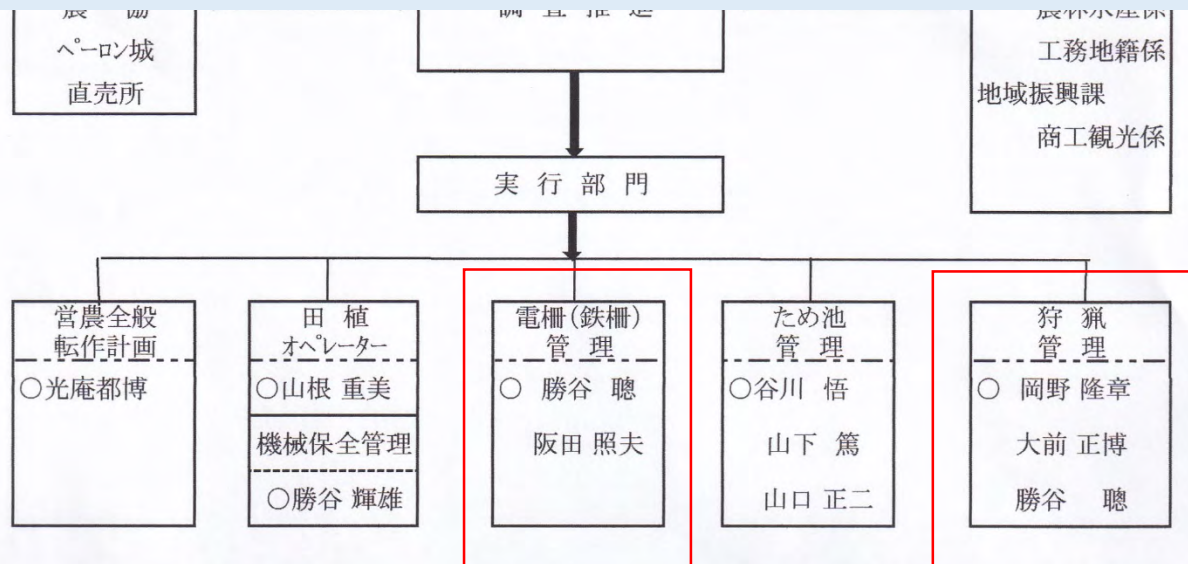


- 平成28年総会で捕獲実施決定（平成29年開始）
- 集落で1名が免許取得（箱罟）
- 檻は3基購入・その後5基増設
- エサ・見回りなどは集落全体で分担

令和2年度営農組合組織



惣代は、自治会長・農会長・共済連絡員・損害評価員・多面的機能支払代表
営農組合長・ゆず栽培組合長・神社惣代・地域活性化協議会長 ・ 等を兼務





地域で箱罟を設置して捕獲